

西鹿渡遺跡

第 25 次発掘調査報告書

2011. 3

盛岡市教育委員会

例 言

1. 本書は、岩手県盛岡市「本柳第2地割32-1外」に所在する西鹿渡遺跡の発掘調査報告である。
2. 本調査は、高齢者福祉施設建築に係る事前調査であり、記録保存を目的とした緊急発掘調査である。
3. 本調査は、事業施工主である吉田利雄から盛岡市教育委員会が委託を受けて実施した。
調査期間は、平成22年5月6日から平成22年5月31日まで。調査対象面積は750㎡である。
4. 発掘調査及び本書の編集・執筆は、盛岡市教育委員会 遺跡の学び館 菊地幸裕・鈴木賢治が行った。
5. 遺構の平面位置は、平面直角座標X系（日本測地系座標）を座標変換した調査座標で表示した。
調査座標原点 $RX \pm 0, RY \pm 0$: $X -37,400.000m, Y +28,600.000m$
6. 挿入中の高さは、標高値をそのまま使用している。
7. 挿入中の土層図は、堆積の仕方を重視し、線の太さを使い分けた。土層説明は本文で記述し、個々の層位については割愛した。なお、層相の観察に際しては、『新版標準土色帖』（1998 小山・竹原）を参考にした。
8. 遺構記号は下記のとおりである。
RA：竪穴住居跡 RE：竪穴状遺構 RD：土坑
9. 本書中の地図は、『盛岡市管内図』（平成11年）及び『盛岡広域都市計画図』（平成12年）を使用した。
10. 発掘調査及び室内整理では、次の方々に参加・協力して頂いた。
小原 功 加藤久栄 上町むつ子 丁藤エキ 熊谷国子 千葉ふさ子 中村 昇 藤田友子 山下摩由美
11. 本調査に関する出土遺物及び記録類は、盛岡市遺跡の学び館で保管・管理している。

目 次

例言・目次	III 調査の成果	3
I 遺跡の環境	1. 竪穴住居跡	3
1. 遺跡の位置と地形及び地質	2. 竪穴状遺構	5
2. 周辺の遺跡	3. 土 坑	6
II 調査の経過	IV 小 結	6
1. これまでの調査		
2. 調査の経過	写真図版	

挿図目次

第1図 遺跡の位置	第4図 RA042 住居跡	4
第2図 西鹿渡遺跡 全体図	第5図 RE004 竪穴状遺構	5
第3図 第25次調査区 遺構配置図	第6図 RE005 竪穴状遺構・RD033 土坑	6

I 遺跡の環境

1. 遺跡の位置と地形及び地質

西鹿渡遺跡は、岩手県盛岡市三本柳第2地割地内に存在する。盛岡市街地から南東約3.5kmに位置し、遺跡の規模は、南北約600m、東西約350mと想定される。

本遺跡は、本県を南北に縦断する北上川の西岸に広がる低位沖積段丘上に立地している。この段丘は、周辺山地から供給された砂礫の埋積によって形成された砂礫段丘で、北上川及びその氾濫原によって画され、北西に広がりを見せている。北上川及びび犀石川は流路転換が著しく、当該地周辺には旧河道が網目状にめぐっている。

2. 周辺の遺跡

盛岡市には、旧石器時代から近世までの各時代の遺跡が確認されているが、本遺跡周辺には古代の遺跡が顕著である。本遺跡の北方には砂礫遺跡が、南方約0.1kmに百目木遺跡、約1.4kmには高橋A遺跡が所在する。いずれも奈良・平安時代の集落跡と考えられている。分けても百目木遺跡は、8世紀後半から9世紀後半に帰属する竪穴住居跡が100棟近く確認されており、土師器、須恵器、鉄製農具等の遺物が出土している。本遺跡に近接する同時期の遺跡と考えられ、関連性が窺える資料である。

II 調査の経過

1. これまでの調査

西鹿渡遺跡は、昭和55(1980)年、都南村教育委員会(当時)が実施した第1次調査を嚆矢とし、以降、試掘調査も含め24次にわたり調査されている。従前の調査では、8世紀後半から9世紀後半に帰属する竪穴住居跡、土坑、溝跡等の遺構が確認され、該期の土師器、須恵器、土錘、鉄製鋤先等が出土している。また、近世以降の溝跡や土坑も確認されている。

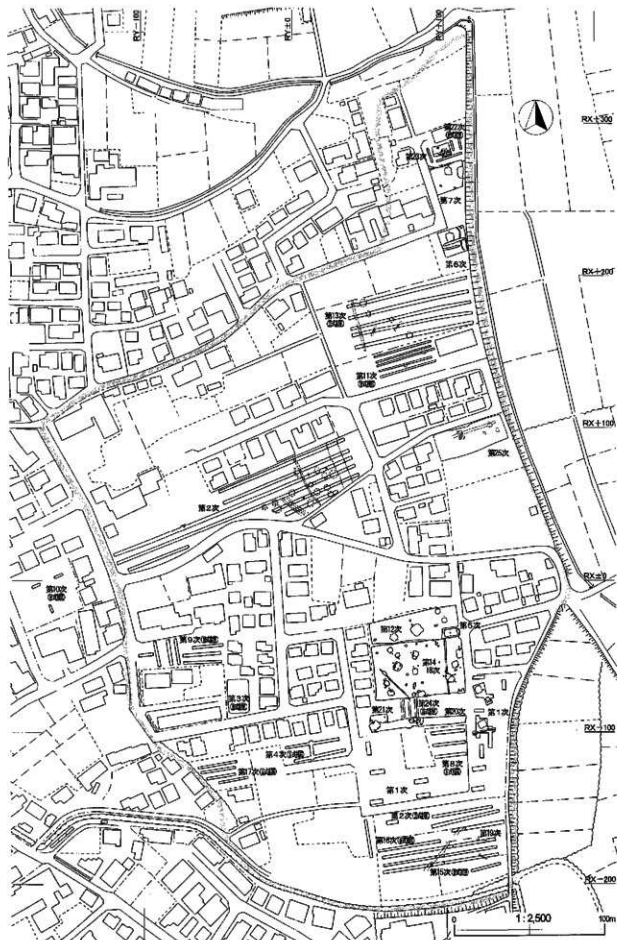
2. 調査の経過

当該区域について、土地所有者から高齢者福祉施設建設に係る事前協議があり、平成21年12月8日付けで発掘届が提出された。これを受け、同年12月25日に試掘調査を行ったところ、建築計画区域の北半部において竪穴住居跡等の遺構が確認された。そのため、発掘調査による記録保存が必要となった。発掘調査は、試掘調査で遺構が確認された範囲の約750㎡を対象とし、遺跡の学びが相当することになった。

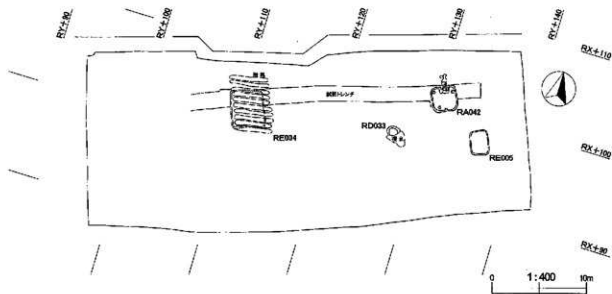
平成22年5月6日、土地所有者と盛岡市教育委員会教育長とで『埋蔵文化財に関する協定書』が締結され、同日から5月31日まで発掘調査を行った。



第1図 遺跡の位置



第2圖 西鹿渡遺跡 全体圖



第3図 第25次調査区 遺構配置図

III 調査の成果

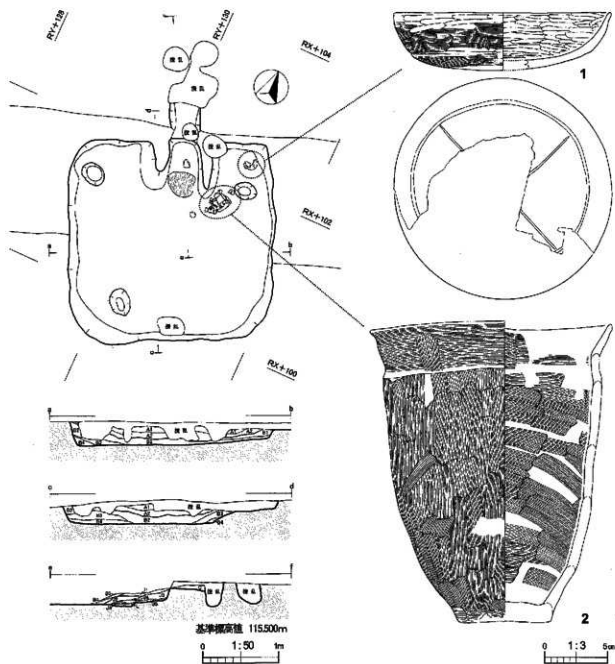
1. 竪穴住居跡

RA042 住居跡

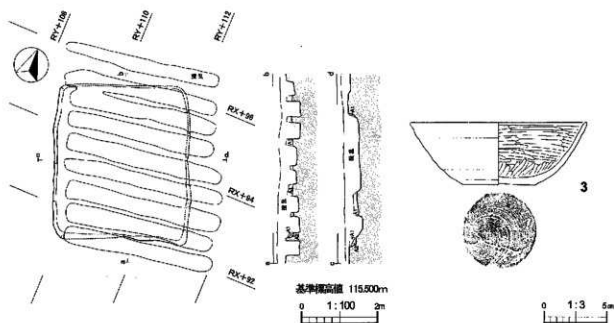
- | | | | |
|------|--|-----|-----------|
| 位置 | 調査区北西部 (RX+104・RY+128 付近) | 平面形 | 隅丸方形 |
| 主軸方向 | N-23°-W | 掘込面 | 削平 |
| 規模 | 《開口部》北西-南東 2.7m・北東-南西 2.7m。 | 検出面 | 黄褐色シルト層上面 |
| 埋土 | 自然堆積で、A・B層に大別される。A層は黒褐色土を主体とし、暗褐色土粒が混入している。B層は暗褐色土を主体とする層で、黄褐色土粒が多量に混入している。 | | |
| 床面・壁 | 床面はほぼ平坦である。貼床は認められず、地山の黄褐色シルト層を掘り込んで床面を構築していた。床面は堅く締まった箇所が部分的に認められるものの、明瞭な硬化面は検出されなかった。壁は、床面から緩やかに外傾して立ち上がる。壁高約 0.1~0.25m を測る。 | | |
| カマド | 北西壁のやや東寄りに1基検出された。煙道の形態は割り貫き式で、煙道の大半部分及び煙出しは、耕作等の擾乱による毀損が顕著であった。煙道の基底部はほぼ平坦であるが、燃焼部より段高くなっており、比高約 0.15m を測る。
カマド袖部は、地山の黄褐色シルト層を削り出して形成されていた。火床面は南北約 0.34m、東西約 0.36m の範囲に広がり、熱受透層 (L層) の厚さは約 0.04m を測る。燃焼部に堆積していたカマド崩壊土 (J層) は暗褐色土を主体とし、粒状ないしは小塊状の焼土及び黄褐色土が混入していた。 | | |
| 柱穴 | 床面上で3口検出された。いずれも径約 0.25~0.35m、深さ約 0.1~0.15m を測る。採取穴、柱痕跡等は確認されなかった。 | | |
| 出土遺物 | 北東隅床面から土師器 坏 (第4図1)、カマド右袖前の床面から横倒して潰れた状態で土師器 壺 (第4図2) が出土した。また、埋土内からも土師器 壺及び須恵器 坏の破片が出土したが、個体数は判然としないう。 | | |

1は、土師器 坏で、約1/2を欠損している。丸底で、体部は内傾しながら緩やかに立ち上がり、口縁端部が僅かに外反する器形を呈する。体部下半には段を有する。口径約17.6cm、器高約4.7cmを測る。調整は、口縁部外面にヘラミガキ、体部外面にはヘラナデが施されている。器内面はヘラミガキで、黒色処理されている。底部外面には、焼成前に付けられた「1」字状の刻書が認められる。

2は、土師器 甕である。口縁部と体部の一部が欠損しているのみで、ほぼ完形である。法量は、口径約19.4cm、底径約7.4cm、器高約24.3cmを測る。調整は、器内外面ともに、口縁部にヨコナデ、体部にヘラナデが施されている。体部下平から底部にかけて、器内外面ともに焦状炭化物の付着が認められる。胎土には、砂礫と金雲母が含まれている。



第4図 RA042 住居跡



第5図 RE004 竪穴状遺構

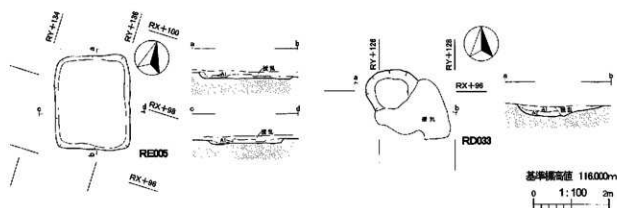
2. 竪穴状遺構

RE004 竪穴状遺構

- 位置** 調査区中央部 (RX+96・RY+108 付近) **平面形** 隅丸方形
- 主軸方向** N-23°-W **掘込面** 削平 **検出面** 黄褐色シルト層上面
- 規模** 《開口部》長軸約4.1m・短軸約3.6m, 《基底部》長軸約3.9m・短軸約3.4m (推定値)
- 埋土** 黒褐色土を主体とし, 黄褐色土粒が混入していた。下層の一部には, 焼土粒と炭化物も認められた。
- 底面・壁** 耕作等の擾乱により西壁以外は毀損が著しい。遺存部分から推測すると, 基底面はおおむね平坦で, 壁は僅かに外傾して立ち上がる。平面は隅丸方形を呈すると推測される。
- 出土遺物** 北西壁際の床面から, 口縁部の一部が欠損したあかやき土器 坏 (第5図3) が出土した。ロクロ成形で, 底部処理は回転糸切り無調整である。法量は, 口径約14.4cm, 底径約6.0cm, 器高約5.1cmを測る。胎土は精緻で, 雲母が微量含まれている。
- その他, 埋土内から須恵器 甕, あかやき土器 坏, 土師器 坏・甕の破片も出土した。

RE005 竪穴状遺構

- 位置** 調査区北西部 (RX+100・RY+134 付近) **平面形** 隅丸方形
- 主軸方向** N-18°-W **掘込面** 削平 **検出面** 黄褐色シルト層上面
- 規模** 《開口部》長軸約2.5m・短軸約2.0m, 《基底部》長軸約2.3m・短軸約1.8m (推定値)
- 埋土** 黒褐色土を主体とし, 黄褐色土粒が混入していた。
- 底面・壁** 耕作等の擾乱により壁はいずれも毀損が顕著であり, 壁の下半部と基底部が遺存している程度であった。遺存部分によれば, 基底面はおおむね平坦で, 壁は外傾して立ち上がる。壁高約0.4mを測る。
- 出土遺物** 埋土内から土師器 甕片が数点出土したが, 小破片のため図示しなかった。



第6図 RE005 堅穴状遺構・RD033 土坑

3. 土坑

RD033 土坑

位置	調査区北西部 (RX+97・RY+125 付近)	平面形	不整形円形
主軸方向	N-18°-W	掘削面	削平
規模	《開口部》長軸約1.4m・短軸約1.1m, 《基底部》長軸約0.9m・短軸約0.7m (遺存部分)	検出面	黄褐色シルト層上面
埋土	自然堆積で、黒褐色土を主体とする。下層では黄褐色土粒が混入していた。		
底面・壁	耕作等の擾乱により南東半部が凹陥している。遺存部分より推測すれば、基底面は凸レンズ状に彎曲し、壁は緩やかに立ち上がる。		
出土遺物	なし		

IV 小 結

今次調査区は、耕作等による擾乱を全域に受けており、遺構の遺存状況は極めて悪かったが、堅穴住居跡1棟、堅穴状遺構2基、土坑1基が確認された。このうち堅穴住居跡は、出土土器の特徴から、8世紀後半代の所産と想定される。本遺跡では当該期の堅穴住居跡が数十棟確認されており、今回の結果はその一端と推測される。堅穴状遺構のうち、RE004 堅穴状遺構は、床面及び埋土内からあかやき土器 坏や須恵器 甕が出土しており、平安時代に帰属する蓋然性が高い。カマド及び火穴等の付属施設が認められなかったため堅穴状遺構としたが、これは擾乱によってカマド等が毀損した住居跡、あるいは住居に類する施設であった可能性も挙げられる。

従前の調査では、遺跡南東部の第1次調査区や第18次調査区、遺跡北東部の第6次調査区、第7次調査区及び第22次調査区において奈良時代の堅穴住居跡が確認されている。今回の調査と勘案すれば、段丘端部に立地する遺跡東側縁辺部にまで集落の形成範囲が広がっていたと想定されるものである。しかし、遺跡西側部分は、調査事例に乏しく、様相は判然としない。奈良時代集落の形成範囲、平安時代集落の展開様相、隣接する遺跡との関連性等、解明が待たれる課題も多い。

本遺跡における従前の調査は、試掘調査や小規模な本発掘調査が大勢を占めており、遺跡の様相については、明確にし得ない部分が多い。さらなる知見の増加を待って、後考を期すこととした。



西鹿渡遺跡 第25次調査 調査区全景 (東から)



RA042 住居跡 全景 (南から)



RA042 住居跡 カマド全景 (南から)



RA042 住居跡 土器出土状況 (南から)



RE004 竪穴状遺構 全景 (北から)



RE005 竪穴状遺構 全景 (南から)



1



2



3



RA042 住居跡・RE004 竪穴状遺構 出土土器

報告書抄録

ふりがな	にしかどいせき							
書名	西鹿渡遺跡							
副書名	第25次発掘調査報告書							
編集者名	菊地 幸裕・鈴木 賢治							
編集機関	盛岡市遺跡の学び館							
所在地	〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13番地1			TEL 019-635-6600				
発行機関	盛岡市教育委員会							
所在地	〒020-8532 岩手県盛岡市津志田第14地割37番地2			TEL 019-651-4111				
発行年月日	西暦2011年3月15日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
西鹿渡遺跡	岩手県盛岡市 三木柳第2 地割32-1	市町村	遺跡番号	39° 39' 52"	141° 09' 49"	2010.05.06 / 2010.05.31	750 m ²	高齢者 福祉施設 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
西鹿渡遺跡 第25次	集落跡	奈良・平安時代	堅穴住居跡 1棟 堅穴状遺構 2基 土坑 1基	土師器、須恵器、 あかやき土器				
要約	<p>西鹿渡遺跡は、岩手県盛岡市南東部に所在する奈良・平安時代を主体とする集落跡である。これまで24回の調査が行われ、奈良・平安時代の堅穴住居跡、土坑、溝跡等が確認された。第25次調査では、奈良時代の堅穴住居跡1棟、時期不明の堅穴状遺構2基、土坑1基が検出され、堅穴住居跡から奈良時代の土師器 坏・甕、須恵器 坏等、堅穴状遺構から平安時代のあかやき土器 坏が出土した。今回の調査により、西鹿渡遺跡の東側隣接部に集落が広がっていたと想定される。本遺跡の集落の様相を解明する資料の一つと考えられる。</p>							

西鹿渡遺跡—第25次発掘調査報告書—

平成23(2011)年3月15日 発行

編集 盛岡市遺跡の学び館

〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13番地1
TEL 019-635-6600

発行 盛岡市教育委員会

〒020-8532 岩手県盛岡市津志田第14地割37番地2
TEL 019-651-4111

印刷 河北印刷株式会社

〒020-0015 岩手県盛岡市本町通2丁目8番7号
TEL 019-623-4256